

事例報告 H29-1(1)

団体名： すみだこども園（橋本ひだまり倶楽部）（和歌山県）

プログラム名：		森とともにだち ～自然の中で共に育ちあう～	
(1) プログラムの目標		・ 森へ一歩踏み出してから味わう何とも言えない解放感や楽しさを充分に楽しむ。 ・ 自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り五感を働かせながら感じたことを表現する。 ・ 木工体験では「自分で作る」「自分でできた」という気持ちを大切に最後まで作り上げる。また、身近にある自然物を使っていろんなものが作れるということを知る。	
(2) プログラムの概要		★4歳児の11月に初めてひだまりの郷に足を踏み入れ森へ探検に行く。 木工体験では、くまさんペンダントを作る 1日の振り返り（絵本・発表） ★5歳児の5月に再びひだまりの郷へ行く。ロープ1本をたよりに山登りに挑戦する。 木工体験では、間伐した竹を利用して初めてのこぎりに挑戦。貯金箱や花瓶など作る。 1日の振り返り（絵本・発表）	
(3) プログラムの展開			
時間数	プログラムタイトル		指導・支援の方法、ポイント等（教材等）
	活動内容		
in、about、for の視点で活動内容を区分			
1	打ち合わせ		ひだまりの郷での過ごし方について話し合う 探検コースの確認 服装の確認（山に入る時は季節を問わず長袖・長ズボン） グループ分けをすることで仲間意識を高める
	ひだまりクラブとこども園の職員と事前打ち合わせ 担任がグループ分けをする		
	about 情報の共有・安全確認		
40分～1時間	ひだまり探検隊スタート		森の中での約束事を聞く。 （AKDの約束→危ない・汚い・ダメを言わない） 森の中での不思議に出会い、見たり、においをかいだり、触ったり、耳を澄ませたりする。
	ひだまりクラブを先頭に森に入っていく。 4歳児探検 5歳児山登り・探検		
	in 森の中での探検		
40分	木工体験		グループごとに分かれる（各グループにスタッフか職員が入る） 目の前にある木々がひだまりの郷でとれたものだを知る。グループの仲間と協力し、困ったことがあれば助け合い、自分の声に出して助けを求める。 世界に一つだけの作品完成。
	ひだまりの郷に落ちている木や枝そして、間伐した竹を使う。		
	in 木工体験 作る楽しさを味わう		
20分	振り返り		四季折々の話や動植物の話を絵本を通して楽しむ。 自分の思いを整理して言葉で振り返り仲間同士共感し合う。
	絵本の読み聞かせ 1日の振り返り（一言発表）		
	about 情報交換・発表		

（４）プログラムでの連携内容

（教育機関、地域、団体等での、①連携・協働先、②役割分担、③具体的な連携・協働の内容）

①連携・協働先

橋本ひだまりクラブ と すみだこども園 （４歳児50名・5歳児69名）

和歌山県緑化推進会 緑の募金事業

②役割分担

ひだまりクラブ→プログラムの指導・郷土の森の点検・木工の準備・豚汁の準備 等

すみだこども園→保護者様への連絡・園児プログラム実施・園児の安全確保・事後の保護者様への連絡 等

③具体的な連携・協働の内容

緑の募金事業をととして、補助金を受ける。



（５）活動の分析（学習指導要領との関連または森林環境教育の視点） 上位３項目

教科・項目、視点	学習内容
自然との関わり・生命尊重	自然にふれて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、身近な事象への関心を高める。身近な動植物を命あるものとして心を動かし、親しみを持って接し、いたわりを大切にする気持ちをもつようになる。
協同性	友だちと関わる中でお互いの思いや考えなどを共有し、考えたり、工夫したり、協力したりする充実感を味わいながらやり遂げる。共に育ち、学びあいながら豊かな経験を積み重ねる。
豊かな感性と表現	心を動かす出来事に触れ感じたことや思い巡らしたことを自分で表現したり友だち同士で表現する過程を楽しんだりして、表現する意欲が高まるようになる。

（６）活動の分析（資質・能力の視点）

項目	ESDの要素（7つの能力・態度）の視点で見つめ直して、もっとも重視する視点の内容を記載してください。
①生きて働く「知識・技能」の習得	〈進んで参加する態度〉 森の中での空気や匂い、木々の色や植物に興味を示し、五感を働かせて自分なりに感じたことを新しい知識として習得し自ら自然を身近に感じていけるようになる。
②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成	〈コミュニケーションを行う力〉 一日の振り返りの時間を持ち、自分なりに感じたことを自分の言葉で相手に伝え、また友だちの思いを聞くことで言葉による表現を楽しむようになる。
③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養	〈協力する態度〉 木工体験を通して、何を作るか目標を持って取り組む中で、友だちと協力して竹を選び運んだり、友だちと意見を出し合い充実感を味わいながらやり遂げる。

（７）実施後、参加者の変化

木工体験で作った作品を家に持ち帰り、コップを鉛筆立てにしたり、貯金箱も活用し、大切に使っている様子を聞くことが出来た。

また、園周辺お散歩で赤い実を見つけて「これは何んの実かなあ？」と友だち同士相談したり、図鑑で調べたりする姿がある。また、冬イチゴを見つけ、「ひだまりで教えてもらった葉っぱと同じやからこれは冬イチゴや！！」と お土産にもって帰ってきてくれる姿もあった。

そして、休日にはひだまりの郷がどんなところなのかと家族で見に行ったという報告も聞いています。



森とともに
～自然の中で共に育ちあう～

和歌山県 橋本市



社会福祉法人 顕陽会 すみだこども園

★人口 62310 人★

橋本には 子どもも大人も生き生きと過ごせる場所があります



園児 233 人
職員 46 名

教育・保育目標

- ☆心身ともに豊かな子ども
- ☆たくましい身体づくり
- ☆思いやりのある子ども
- ☆意欲の持つ子ども
- ☆自分で考えて行動できる子ども

4歳児は、11月に
ひだまりの郷へ



元気よく
おはようございます
(スタッフの方々と挨拶)



森へ出発！！



雨の日だって探検に行きます！



子どもたちの目は、キラキラ★しています。
目で見て、匂いをかいで、触って・・・
自然と五感が働きます。人間の本能でしょうか。



子どもたちが自ら動いて何かを発見し、友達に知らせ
共感している姿をたくさん見ることが出来ます。自然
は、人と人をつなげてくれる力を持っています。



木工体験

くまさんペンダント



自然の恵みを利用して・・・
くまさんを作ります・・・
指先を使って丁寧に・・・
自分で作った世界に一つだけの
ペンダント完成！

❀1日 楽しかったね。❀



子どもたちの心は、おいしい空気と
新しい発見でいっぱいです。

木工体験



そして、5歳児として再び
5月にひだまりの郷へ・・・

ロープ 1 本を頼りに 自分の力で登ります



自分で作る・・・自分で出来たという気持ちを大切にしています



ノコギリに挑戦！

グループのお友だちと意見を出し合い、
協力する姿がみられました。



かなへびを発見！
命あるものに出会い命の尊さについて心をかたむけます。



1日の振り返り

楽しかったことや頑張ったことを
心の中で整理をして言葉で発表します。



日常の保育とひだまりの郷での活動を結びつけながら、家庭ではなかなか出来ない体験を、
存分に楽しみ心の栄養にしながら、たくさんの人に感動体験を伝えていってほしいと思います。
それが、森林ESDの活動につながるのかなぁと感じております。

事例報告 H29-1(2)

団体名： 橋本ひだまり倶楽部(すみだこども園) (和歌山県)

プログラム名： 「みつけて ふれて わくわくドキドキ!!」 森あそび保育実践プロジェクト		
(1) プログラムの目標	①市内外のこども園・幼稚園・保育4園を対象に、各クラス毎、年2回の活動を行っています。生まれて初めて森あそび体験をする園児ばかりです。初めての森林体験の「着地」を大切に、心地良く「楽しかった!」「また来たい!」を目標にしています。 ②森林の持つ不思議発見や、危険性・服装についても知ってもらうようにしています。 ③遊具やおもちゃがなくても、自分たちで遊びを見つけて遊びます。 ④森あそびプロジェクトの為に、たくさんのスタッフが関わっていることを伝えます。	
(2) プログラムの概要	①どの園も4歳児、または、5歳児を対象の森あそび保育になります。 ②森の探検 ③季節と年齢によって、④または⑤を選択する。 ④木工体験・・・クマさんペンダント 木の名札作り ⑤ノコギリ体験・・・前日用意した竹をノコギリを使って切る。切った竹をコップや貯金箱にする ⑥読み聞かせ (絵本・紙芝居) ⑦一日の振り返り→いちばん楽しかったこと発表!	
(3) プログラムの展開		
時間数	プログラムタイトル	
	活動内容	指導・支援の方法、ポイント等 (教材等)
	in、about、for の視点で活動内容を区分	
1 時間	打合せ	
	・園の主任・担任職員・副園長たちと、プログラムについて打合せを行う。	服装・着替え・季節によつての森の様子。プログラム内容や時間の確認、クラスの特徴などの打合せを行う。
	for	
1 時間	森の約束・森の探検	
	①森の約束 ・園児編 ・教諭編 ・探検編 	園児・トイレ・危険回避について 教諭・AKDの約束→危ない・汚い・ダメを言わない 探検・蜂が来たら 雨の日の歩き方など  
	in	
1 時間	森の工作 (またはノコギリ体験)	
	①木工工作体験 ②ノコギリの使い方 	森の恵みを使い、世界にひとつの工作を製作する。 雨天以外は屋外で製作している。 初めて使うノコギリは、コツを覚えれば一段と上手になっていく。園児に相応し使い方を教える。  
	about	
30分	読み聞かせ・振り返り	
	①季節や森に関連した絵本を見つけ、森の中で読み聞かせを行う。 ②帰りの挨拶の前に、園児から、今日一番楽しかったことを話してもらう。	図書館に足を運び、内容を点検し、季節や当日のプログラムに合せた絵本を読み聞かせするようにしている。 帰りの挨拶の際は、お世話になったスタッフへの感謝を表してくれる。締めくくりとして3名限定で今日一番楽しかったことを聞いている。
	about	

（４）プログラムでの連携内容

（教育機関、地域、団体等での、①連携・協働先、②役割分担、③具体的な連携・協働の内容）

①連携・協働先

- ・市内外こども園・保育園・幼稚園 4 園
- ・（すみだこども園 応其こども園 九度山保育所 あやの台チルドレンセンター）
- ・和歌山県伊都振興局林務課
- ・橋本ひだまり倶楽部

②役割分担

- ・市内各園とのプログラム打合せを行う
- ・和歌山県伊都振興局へ見積書等の確認
- ・橋本ひだまり倶楽部では、スタッフと打合せ（材料調達・森林の安全確認・下草刈り）

③具体的連携

- ・和歌山県伊都振興局の見学・各新聞社への連絡



（５）活動の分析（学習指導要領との関連または森林環境教育の視点） 上位 3 項目

教科・項目、視点	学習内容
感性的経験	森にわくわく・ドキドキした気持ちを溢れんばかり持って園児はやってきます。森に入り、今まで知らなかったこと、初めて体験することを通じ、感性の幅が広がります。風の音も、鳥のさえずりも意識して聞くことも覚えます。
森林の自然的特性	森に棲む生き物や、昆虫や爬虫類に出会うことがあります。みんな森の仲間だということを話し、それぞれ命があることを知ります。天候や季節によって、森の過ごし方を変えていくことも、実際に森に入って経験します。
管理・維持	園児が森林に入る為に、ケガや事故が起こらないようスタッフが前もって安全点検をしていることを話します。また、木工工作に必要な材料は、森の中でスタッフが集めたり、木を切って準備した大切なものであることを伝えます。

（６）活動の分析（資質・能力の視点）

項目	ESDの要素（7つの能力・態度）の視点で見つめ直して、もっとも重視する視点の内容を記載してください。
①生きて働く「知識・技能」の習得	「コミュニケーションを行う力」 園児にとって、初めての森林体験はわくわくもあり、ドキドキの期待と不安が入り混じった中で、唯一、いつも一緒に過ごす友達との関係は大きい。協力しあったり、声掛けしたり、注意をしたり、大人の指示でなく、自らがコミュニケーションを発揮している姿を見ることが多い。
②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成	「多面的、総合的に考える力」 普段の生活では遭遇しない危険が森の中にはあり、森の約束の中に危険の話しを取り入れることで、自ずと危険回避の為の判断をしている。
③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養	「進んで参加する態度」 森林体験の中で、園児の持つ素直な心がしっかり表現で来ているのが森で過ごす時間である。森の中で感じるウキウキ感や、ワクワク感も手伝い、怖かったり不安に感じることも、互いが声を掛け合ったり、積極的に先頭に出る園児が全体を引っ張ってくれたり、就学前の園児とは思えない行動が見られる。

（７）実施後、参加者の変化

- ①どの園も森林の持つ自然感や園児の生き生きと目を輝かせる姿に、再度、森林体験を園のプログラムの中に取り入れたいと考えています。
- ②園児ばかりでなく、教諭たちも、園児と共に森林体験を楽しんでいます。
- ③森の約束を園児たちとも交わしますが、AKDの約束を教諭とも交わします。
 - ・A・・・危ない！
 - ・K・・・汚い！
 - ・D・・・ダメ！
 ・危険な時は命を張って守ってください。→先生との約束は、園児に人気です。



森で過ごす時間は

わくわく ときどき!!

楽しいは

こどもが見つけます

こども園協働 森林ESD

橋本ひだまり倶楽部